

CASA DE



25

2-13-10, Komone, Itabashi-ku,
Tokyo, 173-0037, Japan
Tel: +81 (0)3 6276 5323
contact@gallerycasade.com

DESIGNER

- MID CENTURY -

- Pierre Jeanneret
- ◆ Lina Bo Bardi
- ◆ Pierre Chapo
- ◆ Serge Mouille
- Ricardo Fasanello
- ◆ Sergio Rodrigues
- ◆ Pierre Chareau
- ◆ Gianfranco Frattini
- ◆ Jorge Zalsupin
- ◆ José Zanine Caldas
- ◆ Martin Eisler
- ◆ Jean Touret
- ◆ Isamu Kenmochi
- Isamu Noguchi

- CONTEMPORARY -

- Marcenaria Baraúna
- Derek Welsh
- x+l
- INODA+SVEJE
- Klemens Grund
- BIG GAME
- Nityan Unnikrishnan

BRAND



EDITIONS SERGE MOUILLE

LinBrasil

Sergio Rodrigues
• ATELIER •

Tendo



Furniture Marolles

Galerie MCDE
édition Pierre Chareau



Tacchini





V-leg Office Chair
Size : W510 D600 H780 SH435 AH665 mm
NT,DS/BK



Armless Dining Chair
Size : W445 D525 H860 SH445 mm NT,DS



Cross Easy Chair
Size : W560 D750 H720 SH365mm NT,DS



Kangaroo Armless Lounge Chair
Size : W585 D765 H600 SH335mm NT,DS





Easy ArmChair

Size: W575 D715 H700 SH370 AH580 mm NT,DS/BK



Library Chair

Size : W455 D470 H760 SH445mm NT,DS





Teak and Cane Bench
Size : W1375 D460 H380 SH380mm



Square Table
Size : W915 D915 H710mm NT/BK



Upholstered Easy Armchair
Size : W700 D780 H750 SH390mm

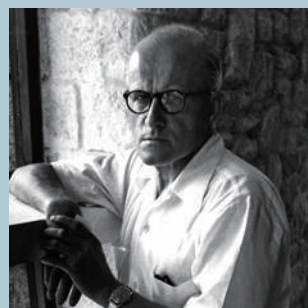


Upholstered Sofa
Size : W1500 D820 H780 SH415mm

PIERRE JEANNERET

1896 - 1967

ピエール・ジャンヌレ
スイス、ジュネーヴ生まれ。



建築家であり、建築理論家、製図家、彫刻家、家具デザイナーでもあった、ピエール・ジャンヌレ。1921年にジュネーブ美術学校を卒業後パリに移住し従兄弟のシャルル＝エドゥアール・ジャンヌレ（ル・コルビュジエ）と共にアトリエを開設しました。ル・コルビュジエやシャルロット・ペリアンらとともに、20～30年代のデザイン界を牽引した人物のひとりです。20世紀を代表する建築物であるサヴォワ邸、クラルテ邸、パリのパヴィヨン・スイスなどを彼らと共に設計しました。第二次世界大戦中、ル・コルビュジエはヴィシー政権を支持し、ジャンヌレはレジスタンスに参加したため、この生産的な協力関係は終わりを告げました。

1955年、彼らはインドの新首都チャンディーガルのために再び団結し、ビジョンに満ちた都市の設計を始め、後にこの都市は現代の礎となりました。ル・コルビュジエはすぐにこのプロジェクトを他の人に任せることにしましたが、ピエールはさらに15年間そこに留まり、建築と家具のデザインのチーフアーキテクトとして仕事をしました。当時のインドは工業化が遅れていましたが、彼は、インドの伝統的な手工芸にデザインを合わせることで、モダンな精神を作り出し始めたのです。彼はチークやサトウキビといった地元の素材を使い、シンプルな技術で家具を製作しました。それは冒険的な挑戦であり、シンプルであることが新しいモダンの表現を生み出すことになったのです。しかし、彼のデザインは苦勞の末に生まれたものではなく、シンプルな素材を使い、何ができるかを確認する喜びから生まれたものでした。彼は多くのプロトタイプをデザインし、取り外し可能で軽い家具を作ることが好きでした。だからこそシンプルな手段で作られた、遊び心のある名品ができたのです。しかし、それ以上に重要なのは、禁欲的な生活の複雑さを称えることでした。コルビュジエは、ヨーロッパの近代化から遠く離れた地で活動し、ジャンヌレは、低予算の材料で実験を行い、インドに適した技術と建築表現を開発する機会を得ました。自治体のアドバイザーとして、自治体の顧問として、自治体のオフィスの椅子をデザインしたり個人宅も多数手掛けました。以来、彼はこの国で最も有名なジャンヌレであり続けています。

彼はすべてのディテールをデザインし、風景、建築、家具の象徴的な統一感を作り出し、彼のデザインアプローチは、形式的なものでなく、自由、幸運、喜び、そして生活の一部であることを見出そうとする思想的なものでした。そのため、今日でもその家具は本質的で永遠の深みを表現しており、私たちの心に深く刻まれているのです。

Project Chandigarh

「プロジェクト・チャンディーガル」は、ジャンヌレがコルビュジエとともに多くの建築物を設計したインドの「チャンディーガル都市計画」の際、様々な建物のためにデザインした家具シリーズを再生産しているプロジェクトです。当時、同時期に大量の家具を必要としたため、ジャンヌレは現地インドで入手可能なチークの無垢材を用い、図面と大まかなアドバイスのみで製作可能なデザインを考えました。そのため同じ図面からつくられたにも関わらず、大きさや比率、部材の太さや角度などが様々な工房の職人によって異なる作品が数多く生産されたのです。このプロジェクトでは、当時のオリジナルの図面が残っているプロダクトのみを忠実に復刻しています。今では入手が困難となったチーク材は、新材とともに、築100年以上の建物に使われていた古材を再利用し、インドの工房「Phantom Hands」によって一つ一つ職人の手で制作されています。



Girafa Chair
Size : W390 D430 H760 SH450 mm



Girafa Stool
Size : W390 D340 H450 ϕ 330 mm



Girafa Table
Size : ϕ 700 H720 mm



Girafa Bar Chair
Size : W390 D460 H950 SH760mm



SESC Pompeia Chair
Size : W400 D500 H640 SH445mm

Carbon Girafa Chair
Size : W390 D430 H760 SH450mm



Little Box for SESC Pompeia
Size : W660 D580 H580mm



Girafa Embroiderer
Size : W350 D430 H690 SH250 mm



Masp Chair
Size : W460 D585 H875mm



LINA BO BARDI

1914-1992



リナ・ボ・バルディ

イタリア・ローマ生まれ。

ジオ・ポンティのもとでキャリアを積み、アートディーラーであったビエトロ・マリア・バルディと結婚しました。その後、サンパウロ美術館の立ち上げのため招致された夫と共にブラジルへ渡ります。家具デザイナーとしては、1949年にジャンカルロ・パランティとともに「スタジオ・ダルテ・パルマ」を設立。その工場はたった2年間のみの活動ではありましたが、プライウッドやブラジル原産の材料を使ったシンプルな構造のモダン家具を製造しました。リナが初めて家具のデザインをしたのは1947年サンパウロ美術館の講堂のための椅子でした。

1951年リナが36歳の時に、サンパウロのムルンビに、最初の建築作品となる自邸「ガラスの家」を設計し家具も手がけました。「ガラスの家」は建築作品としてのリナの処女作であり、内装や家具も含めてデザインした自邸です。傾斜地に建つこの住宅は、眺望の開けた方角を全面的ガラスファサード、山側を伝統的なデザインの居室部分として周囲の風景との一体化を図りながらリナ作品の特徴の一つである「現代建築と土着的建築の融合」を見事に表現している作品です。建設当時は植生のなかった土地にひとつひとつ植えられたのは全てブラジル原産の植物でした。ブラジル原産の熱帯植物を用いて建築をデザインすることはリナの特徴のひとつでもあります。リナは植物が単に好きだっただけではなく植物の種類を見分け、その特徴について語ることができました。植物への興味は生涯尽きることがなく、自然が環境のバランスを保ち、人類により良い生き方を教えてくれるという信条がインテリかつ現場主義者のリナの特質の根底にありました。この自邸の完成と共にリナはブラジル国民となりブラジルで生きていくことを選択しました。

リナは1973年4月と、「SESCポンペイア文化センター」設計中の1978年10月(58歳と64歳の時)に日本を訪れています。1回目は京都を中心に、2回目は東京を中心に鎌倉・日光をまわり、建築や風景、食事、文化、そして人びととの交流を楽しみました。建築家・丹下健三のもとを訪ねたともいわれています。リナは旅先で多くのスケッチやメモを残しており、この旅はその後の生き方へも大きな影響を与えたことが伺えます。リナが日本を捉える視点には、西欧と地理的に離れている独自の文化をもつブラジルとの共通点も含まれていました。ブラジルのあるべき姿を考え続けたリナにとって、国が独自の文化を守りながら近代化を進める日本の姿は、良い対象でもありました。規格的でありながらさまざまな組み合わせが可能な量や日本の伝統的な建具のシンプルな美しさに以前から興味をもっていたリナは、寺院や日本家屋、鎌倉近代美術館を訪れました。

1986年には、サンパウロ美術館の改築や、1986年のSESCポンペイア文化センターなど公共建築物をいくつも手がけています。イタリア・ミラノのNilufarGalleryが彼女にフィーチャーした展示を催した影響もあり、コレクター達からも大きな注目を集めています。

ブラジルでは「外国人」であり「女性」でもあったため難しい時代を過ごした彼女でしたが、多くの建築作品を残し、建築とデザインの社会的・文化的な可能性に追求した人生でした。



Round Dining Table T21A,B,D,E
4Size



Round Stool S31- A,B,C
3Size



Chair with 7-shaped Back S34
W400 D500 H730mm



All Wood Chair S28
W400 D400 H830mm



Wooden Bench and Cushion L09

[L09F] Simple 3 seats bench
Size: W1960 / D760 / H290mm

[L09G] 3 seats bench with back
Size: W1960 / D760 / H530mm



Shelves B30 -1
5Types





Full-stretched Leather Armchair S10-A
W680 D630 H590mm



Full-stretched Leather Armchair S10-B
W680 D630 H590mm



Full-stretched Leather Armchair S10-A



Large 4 Doors Sideboard R16
W2930 D610 H1120mm

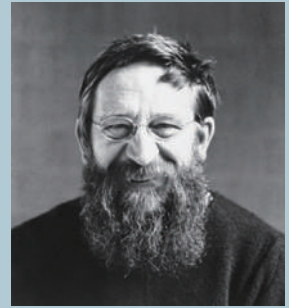


PIERRE CHAPO

1927 - 1987

ピエール・シャポ

フランス・パリ生まれ。



シャポは、当初、プロの画家を目指していましたが、造船技師との出会いにより、木材や木工芸に目覚め、パリ国立高等美術学校で建築を学ぶことを決意します。卒業後、シャポは妻で彫刻家・画家のニコル・ロルミエとともに、北欧や中米を広く旅するようになりました。その中で、フランク・ロイド・ライトの自宅兼アトリエであるタリアセン・ウエストを訪れ、この訪問が、その後のシャポの作品やデザインに多大な影響を与えることとなりました。

1950年代末に帰国したシャポは、妻の協力を得て、自分のデザインを形にして制作を始め、販売を開始しました。彼のデザインに熱狂的なファンがつくまで、そう時間はかからなかったといいます。興味深いことに、最初の顧客の一人はサミュエル・ベケットで、シャポはベケットの有名な戯曲にちなんで「Godot-bed」を制作しました。当初、シャポは1958年にニコルと共にパリのオピタル通りに設立した高級ショップ「Galerie Chapo」で作品を販売していましたが、そこでは自分の作品と共に、イサム・ノグチなど他の職人や芸術家の作品も展示していました。シャポはノグチの工芸品に対する有機的なアプローチに共感し、二人とも戦後の社会主義の影響下で主流となっていた荒々しい工業的な製品に対して抵抗しました。シャポは、「実用性」以上のものを求めており、家具デザインは美的なものであるべきだと考えていたため、黄金比の重要性を強く主張していました。彼の作品は、古くから伝わる木工技術と伝統に、現代的なアプローチを融合させたデザインです。彼の卓越した作品のデザインには、主にオーク材、ニレ材、チーク材、アッシュ材が使用され、現代的なデザインと伝統的な職人技への2つの関心を明確にしました。1960年には、パリへの貢献に対する感謝の印として、パリ市から金賞を受賞。彼は、個性的で時代を超越した、普遍的なクオリティを持つデザインを支持しました。

シャルロット・ベリアンがアルプスのスキースクール、「レザルク」のために制作した作品に影響を受け、1967年の装飾芸術家協会展に参加し、そこでも賞を受賞。同年、家族とともにプロヴァンス地方のアヴィニョン近郊のゴールドに移り住み、その風景に触発されたシャポのデザインは、伝統に根ざした無骨で大胆なものとなっていきました。ゴールドでは、職人たちを雇い入れたことから、彼のデザインに対する需要を満たすことができるようになり「Oeil table」「T01 table」「S01 stool」「T21 Table」「L01 'Godot' daybed」など、戦後のムーブメントに大きな影響を与えた、コレクション性の高い作品を生み出しました。ゴールドに拠点を移してから20年後の1987年にピエール・シャポは他界しました。

その後、息子のフィデル・シャポが父との思い出の地であるゴールドの工房を家具会社「Chapo Gordes SA」として設立、父のデザインと意思を継承し職人であった彼自身も、家具の製作を続けました。父親譲りの卓越した技術力とクラフトマンシップからフィデル・エディションと呼ばれるように、彼が製作した作品も数多くのコレクターから高く評価されました。残念ながら、2021年の暮れにフィデルも享年54歳という若さで他界し、現在はピエール・シャポの孫にあたるゾラン・シャポが会社を引き継ぎ、同じゴールドの地で製作を続けています。

シャポは、フランスが生んだ最高のデザイナーの一人であることは、彼のデザインや職人技を見れば明らかです。30年のキャリアの中で、彼は家具製作と建具の伝統工芸へのこだわりを一度も失うことはなく、それらが優れた家具に不可欠であると信じていました。作品には、モダンなデザインと伝統的な職人技が融合しており、木材とその特性に対する彼の愛情がすべての作品に表現されています。



Floor lamp "Big Totem"

Size : W180 D180 H1730mm



Floor lamp "Small Totem"

Size : W180 D180 H1170mm





Floor lamp "Small Signal"
Size : W125 D125 H1080mm
W180(base) D180(base) H-mm



Floor lamp "Big Signal"
Size : W160 D160 H1920mm
W330(base) D330(base) H-mm



Floor lamp "Very Big Signal"
Size : W160 D160 H2220mm
W330(base) D330(base) H-mm



Sconce 1 rotating straight arms
Size : W930 D H360mm



Sconce 1 rotating curved arms
Size : W990 D H400mm



Sconce 1 arm 2 swivels
Size : W700 D- H-mm



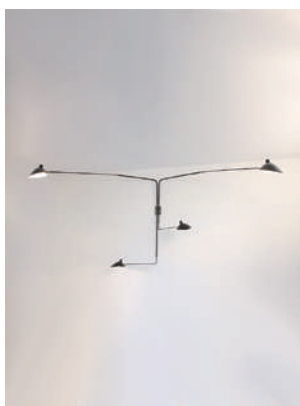
Sconce 2 rotating straight arms
Size : W1340 D H750mm



Sconce 2 rot. arms, 1 straight, 1 curved
Size : W1750 D- H700mm



Sconce 3 rotating straight arms
Size : W3790 D- H1080mm



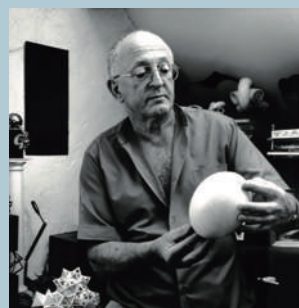
Sconce 4 rotating straight arms
Size : W4660 D- H1600mm



Sconce 5 rotating straight arms
Size : W4500 D- H400mm

SERGE MOUILLE

1922 - 1988



セルジュ・ムイユ

フランス・パリ生まれ。

1922 年 12 月 24 日にセルジュ・ムイユは 3 人兄弟の末っ子として、警察官の父と、在宅勤務の裁縫師であった母の間に生まれました。少年時代は、見た植物や動物を描くのに数え切れないほどの時間を費やしました。葉脈の動き、貝の成長の仕方、動物の骨格や関節の解剖学的構造など、これらのディテールに対する好奇心が、後に彼の作品の大きな特徴となります。

セルジュ・ムイユは、当時のデッサンの先生の勧めで、パリの応用美術学校の入学試験を受けました。どんな学生が学んでいるのかも知らず、両親にも受験することを伝えていなかったセルジュは 13 歳にして試験に合格し、当時の応用美術学校の最年少生徒となりました。応用美術学校では、世界的な彫刻家であるガブリエル・ルネ・ラクロアから金属加工と銀細工を学び、1941 年に卒業した後、彼のスタジオで働くことになりました。

1953 年にジャック・アドネに照明器具のデザインを依頼されたことをキッカケに、その後の人生を照明の製作に捧げました。セルジュは、角ばった昆虫のような大型の壁掛けランプや、複数のアームを持つスタンド型ランプ、さらには小型で曲線が多用した壁掛け型の照明器具をデザインするなど、空間の動きを感じさせる運動的でありながら、彫刻的にも美しいフォルムを追求しました。シェードの形状は、女性の体形からインスピレーションを得ています。彼の最初の照明デザインとなった「スリーアーム・フロアランプ」をはじめとしたこの時期の作品は、主にパリの「Galerie Steph Simon」で展示をされ、この頃からジャン・ブルーヴェ、シャルロット・ペリアンとの交流が始まりました。

1955 年には、フランスの美術館連合組織である Society of Decorative Artists (装飾芸術家協会) と French National Art Society (フランス国立芸術協会) の会員となります。1950 年代の終わり頃、セルジュは施設の照明をデザインするようになり、アントニー大学、ストラスブールとマルセイユの学校、ビゼルト大聖堂の照明を手掛けました。1961 年には、SCM (societe de creation de modeles) を設立し、かつての生徒の一人であるフィリップ・ロジェを雇って、生産面の改革をおこないました。セルジュは、このタイミングでライトやランプのラインに変更を加えるなど、再び自身の作品に新しさを取り入れようとしました。それまで、産業用としての活用に限定されていた光源である蛍光灯に着目し、新たなフロアランプシリーズである「Les Colonnes」を 1962 年に発表しました。セルジュの代名詞となっていた黒いフォルムを思い起こさせるものではなく、それまでの機能的な照明とは一線を画すデザインとなった「光の柱」は、機能的よりも芸術的な意味合いが強く、丸、四角、直角といった純粋な幾何学的なモチーフは、当時のフランスではあまり受け入れられませんでした。その後、「Les Colonnes」も注目を浴び始め、現在では「Black Shapes」シリーズとならび、オークションにて高額で取引されるセルジュ・ムイユの代表作のひとつとなりました。



Mole Armchair

Size : W1200 D1050 H820mm

Mole Footrest

Size : W820 D480 H450mm



Mole Sofa 3P

Size : W2200 D1100 H820mm

Mole Sofa 2P

Size : W1850 D1100 H820mm



EP12 Mirror

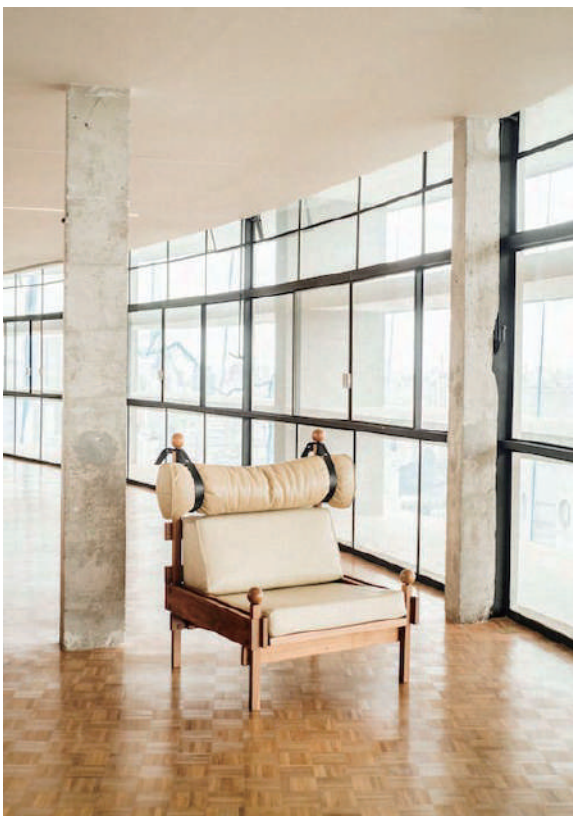
Size : W800 D65 H800mm



Kilin Armchair [cowhide]
Size : W680 D630 H690mm



Kilin Armchair [Leather]
Size : W680 D630 H690mm



Tonico Armchair
Size : W1050 D830 H1030mm

Tonico Ottoman
Size : W860 D500 H420mm



Gio Armchair
Size : W850 D780 H1000mm

Gio Ottoman
Size : W750 D550 H370mm



Vivi Armchair

Size : W900 D900 H940mm

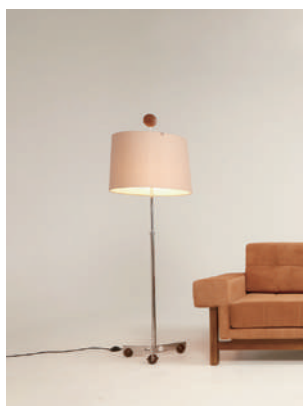
Vivi Ottoman

Size : W600 D600 H370mm



Leif Bench

Size : W1800/2200/2600 D500/550/600 H400mm



Sergio Augusto Floor Lamp

Size : W500 D500 H1400-1800mm



Burton Table

Size : W2000 D950 H750mm / W2800 D1200 H750mm



SERGIO RODRIGUES

1927 - 2014



セルジオ・ロベルト・サントス・ロドリゲス

ブラジル・リオデジャネイロ生まれ。

ブラジルを代表する建築家やデザイナーとして、傑出した個性を発揮した人物。ジョアキム・テンレイロ、ホセ・ザニン・カルダスらとともに、ブラジルのデザインを工業デザインに転換し、世界に知らしめたパイオニアです。

1952年にリオデジャネイロの国立建築大学を卒業したロドリゲスは、「わが民族の精神」を表現できるようなデザインを求めて、彼自身が言うように「必死の探求」を行いました。機能性を追求した家具や国際的なデザインが重視されていた時代に、ブラジルの気候やのんびりとしたライフスタイルに適した快適さを備えつつ、その土地の文化を反映した家具が必要だと考えたのです。やがてロドリゲスはクリチバに移り住み、ハウナー兄弟と共同でモヴェイス・アルテサナル・パラナエンセを設立します。クリチバ初のモダン家具店として注目を浴びましたが、店は成功しませんでした。1955年、故郷のリオデジャネイロに戻った彼は、ブラジルで最も影響力のある大規模な家具メーカーOCAを設立し、ブラジル家具の生産に新たな局面を告げる店となります。

1950年代から60年代にかけての絶頂期には、モダニズムに則った家具デザインを手がけ、デザインにおいても、革、木、籐といった伝統的な素材を用いて、彼の母国の文化を高揚させました。「Mole Armchair」はニューヨーク近代美術館 (MoMA) のコレクションにもなっており、現在でも垂涎的となっています。

1968年、ロドリゲスはOCAを退社しましたが、自宅のスタジオでホテルや住宅、職場の家具からプレハブ住宅のシステムまで、さまざまなデザインを生み出し続けました。彼は、自分のプロジェクトの図面だけでなく、家具や日常の風景、そして自分自身を描いたユーモラスなイラストを集めていました。デザイナーであるフェルナンド・メンデス・デ・アルメイダは、彼の師であり、友人であり、いとこである彼のことをこのように語っており、クリエイターの重要性を強調しています。「アーティストとして、また公人としてのセルジオ・ロドリゲスの姿は永遠であり、私たちの生活史や国の歴史と融合しています。ブラジル人アーティストの中で、これほど長い間、私たちの文化、生活様式、そして私たちのあり方を、これほど強い決意で守り続けた人はほとんどいないでしょう。これほど長く生産的な生涯を送ったデザイナーはほとんどいないでしょう。」

セルジオ・ロドリゲスは2014年、リオデジャネイロで逝去しました。

60年のキャリアを通じて、宮殿、官庁、外交官、ホテル、劇場、企業、家庭などに置かれる約1,200ものモデルの家具を制作しました。彼の作品は、それぞれの建築空間の必要性を理解し、その時々利用可能な資源からデザインし、優雅さと想いが集約されています。



Esfera Loungechair

Size : W1120 D1120 H910 SH510mm

Anel Office Chair 60s

Size : W680 D680 H700 SH420-500mm



Anel Chair 60s

Size : W680 D680 H800 SH500 BASE500mm



Anel Chair 80s

Size : W680 D680 H800 SH500 BASE450mm



GAIVOTA Lounge Chair 60s

Size : W1000 D750 SH350 BASE650mm



GAIVOTA Lounge Chair 80s

Size : W1000 D750 SH350 BASE650mm



Fardos Loungechair

Size : W1200 D1100 H950 SH370mm

Fardos Sofa 2P / 3P / 4P

Size : W1600 / 2000 / 2400 D1100 H950 SH370mm



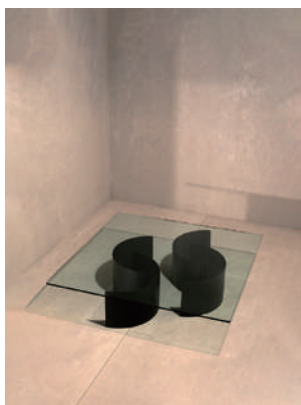
Anel LoungeChair 60s

Size : W780 D780 H700 SH350 BASE600mm



Anel LoungeChair 80s

Size : W780 D780 H690 SH340 BASE500mm



Arcos Coffee Table

Size : W1000 D1000 H320mm



Ciranda Side Table A

Size : W350 D350 H720mm

Ciranda Side Table B

Size : W500 D500 H450mm

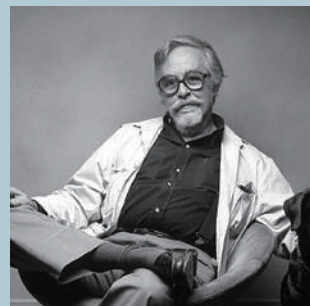
Ciranda Side Table C

Size : W800 D800 H450mm



RICARDO FASANELLO

1930-1993



リカルド・ファザネロ

ファザネロは独学でデザインを学んだブラジルのアーティスト兼デザイナーであり、製作も手がける職人でした。幼少期から創造性に富み、14歳で帆船を設計するなどものづくりへの情熱を持ち続けました。裕福な不動産業の家系に生まれ、サンパウロの社交界でも知られていましたが、とりわけ車への情熱が強く、11歳で運転に興味を持ち、やがてレーシングカーの設計に没頭。20代前半にはポルシェで事故を起こし、1年間の入院を余儀なくされましたが、スポーツカーデザインへの挑戦を続けました。しかし、商業的な成功には至りませんでした。

1960年代にリオデジャネイロへ移住し、アーティストが集うサンタテレザ地区で家具デザインを開始。結婚を機に独学で家具づくりを学び、自宅をスタジオとして活用。ここは1993年の彼の死後も工房として稼働しています。

彼のデザインは、当時のブラジル家具では珍しかったグラスファイバーやポリエステル樹脂を積極的に取り入れた点が特徴です。ボートやストリートレーシングカー「バラチーニャ」の設計経験から空気力学への深い理解を持ち、それを家具デザインに応用。異素材を組み合わせ、張力や重量、圧力への反応を研究し、理想のレザーが見つからないと自らなめし加工を行うほどのこだわりを見せました。また、自動車のシート縫製技術を取り入れるなど細部まで工夫を凝らしました。

1968年には「ファルドスチェア」や「エスフェラ アームチェア」を発表。ポップアートの影響を受けつつ、セルジオ・ロドリゲスのカジュアルな美学とも共鳴し、工業的な素材とブラジルらしい天然レザーを融合。1970年には「アネル アームチェア」を発表し、技術力の高さを示しました。

1970年代初頭にはヨーロッパの家具見本市に招待され、国際的な評価を得る機会をつかみました。その後、サンパウロの新聞社「O Estado」のオフィスに「ファルドス」を設置するなど、企業からの依頼が増加。1980～90年代も制作を続け、晩年には再び自動車デザインに情熱を注ぎ、自宅の庭に作業台を設置して試作を行いました。

彼の作品は彫刻のような造形美とエレガントなデザインが特徴で、人間工学に基づいた快適性も兼ね備えています。この都会的で洗練されたスタイルは、1960年代のみならず現代においても独自の存在感を放っています。「エスフェラ」は2008年にサンフランシスコ近代美術館 (SF MOMA) のコレクションに加えられ、国際的評価を確立しました。

しかし、生前のファザネロは広く知られる存在ではなく、その独創的なデザインが本格的に再評価されるのは近年のことです。現在もサンタテレザの工房は稼働していますが、生産体制の拡充に伴い、リオデジャネイロの別エリアへ移転予定で、さらにベルリンにも新たな製作拠点を設立する計画が進められています。



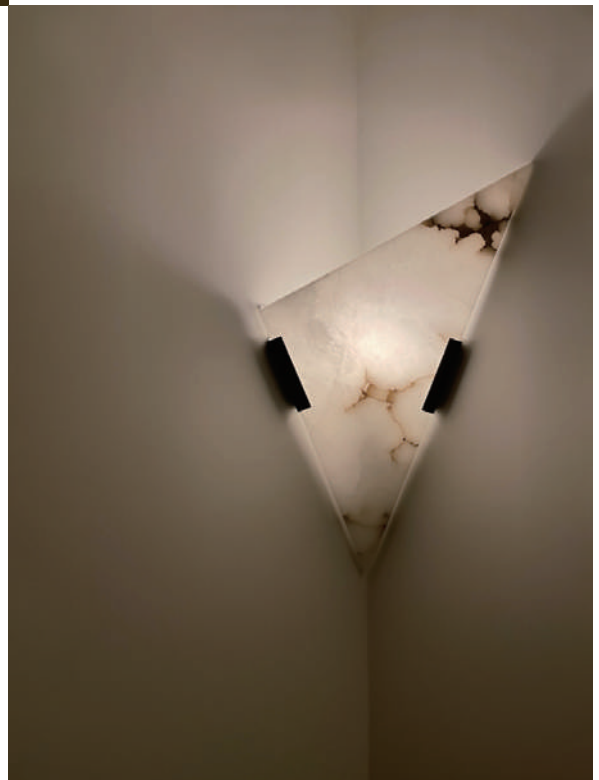
FLY GABY

Size : W254 D152 H228mm



Angle Wall Corner Lamp

Size : W220 D127 H406mm





Nun Lamp-A
Size : W140 D140 H450mm



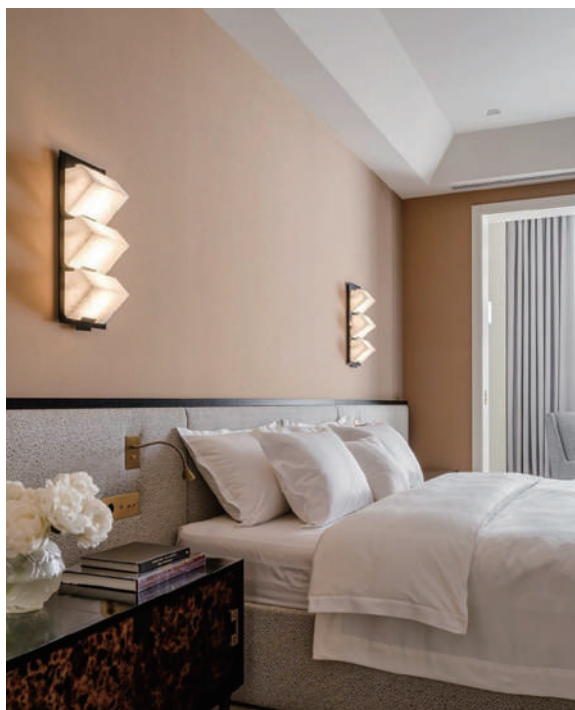
Nun Lamp-B
Size : W250 D250 H810mm



Nun Lamp-C
Size : W300 D300 H910mm



Nun Lamp-D
Size : W400 D400 H1860mm



**SIMPLE -SLOPING BLOCK-
Wall Lamp-145,185,230**

Size : W145 D100 H130mm ~



**DOUBLE -SLOPING BLOCK-
Wall Lamp-145,185,230**

Size : W145 D100 H270mm ~



**TRIPLE -SLOPING BLOCK-
Wall Lamp-145,185,230**

Size : W145 D100 H400mm ~



**SIMPLE -SLOPING BLOCK- Wall
Lamp on Metal Frame-145,185,230**

Size : W225 D110 H220mm ~



**DOUBLE -SLOPING BLOCK- Wall
Lamp on Metal Frame-145,185,230**

Size : W185 D110 H350mm ~



**TRIPLE -SLOPING BLOCK- Wall
Lamp on Metal Frame-145,185,230**

Size : W185 D110 H480mm ~



PIERRE CHAREAU

1883 - 1950



ピエール・シャロー

フランス・ボルドー生まれ。

当初は、絵画や音楽などにも関心があったものの、パリの Ecole des Beaux Arts ,ENSBA(国立高等美術学校) で建築学を学びました。1908 年に卒業後、シャローはパリに拠点を置く英国の家具会社に勤務し、その後、小規模のインテリアプロジェクトを数多く立ち上げました。シャローが最初に完成させたプロジェクトの一つである友人の Jean Dalsace 博士の書斎 / 寝室のデザインは、パリの Salon d' automne で展示され、その後、ダルサース博士は自邸の設計をシャローに依頼しました。これが彼の代表作となる「ガラスの家 / Maison de verre」の誕生でした。彼は家具、照明、建築デザインに対してモダンなアプローチを取り入れ、マホガニー ローズウッド、アラバスターといった自然素材に、金属やガラスなどの戦後主流となっていた工業的な産業資材を組み合わせました。シャローの作品の特徴は、当時としては珍しい素材の組み合わせでした。

1930 年代は、ファシズム、反ユダヤ主義の台頭、後の第二次世界大戦の勃発によって、ユダヤ人の芸術家、建築家、クライアントの間の絆が強まり、多くのコミュニティが生まれました。ガラスの家をはじめ、シャローのクライアントの殆どはユダヤ人だったと言われています。

1940 年にナチスがフランスを占領した後、自身もユダヤ人だったシャローは、家族を連れてアメリカに亡命をしました。ジャン = ミシェル・フランクとならび、シャローはナチズムの脅威から逃れなければならなかった最も有名なフランス系ユダヤ人デザイナーの 1 人とされており、この出来事が、フランスで順風満帆なデザイナーとしてのキャリアを送っていたシャローの人生を大きく狂わせることとなります。これまでの功績諸共、ナチスによって追放されてしまったシャローは、自身が保有していたモンドリアン、ピカソなどの作品を売り払い、ニューヨークでデザイナーとしてのキャリアの再構築を図りました。近代美術館 (MOMA) などに個展の売り込みを続けましたが、当時の政治的影響により全く相手にされることなく、1950 年に志半ばで人生を終えることとなりました。

戦前、戦後のモダニズム建築史を語る上での最重要人物でありながらも、フィーチャーされることが少なかったピエールシャローの作品は、美術品オークションカンパニーの Sotheby' s、ニューヨークの The Jewish Museum の尽力によって、現代で再び脚光を浴びることになりました。シャローの苦難な人生から約 60 年が過ぎた 2016 年には、アメリカの The Jewish Museum でシャローの念願だったアメリカでの個展が開催されました。単にこういった背景があるから注目されたのではなく、シャローの作品のデザイン性と理念も高く評価されています。

Rectangle Carpet 【KENMOCHI-C】

Size : W2100 D1620 H16mm



Round Carpet 【KENMOCHI-B】

Size : W3000 D3000 H19~54mm



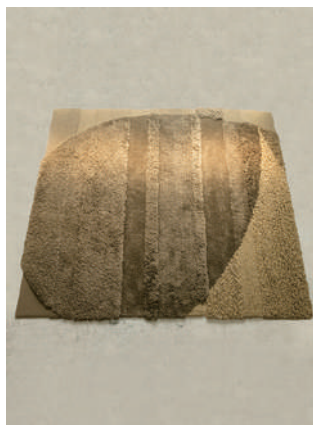
Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.01】

Size : W2400 D2600 H44~54mm



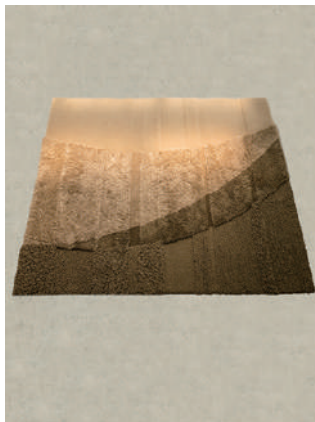
Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.02】

Size : W2400 D2600 H44~54mm



Square Carpet 【KENMOCHI-A / NO.03】

Size : W2400 D2600 H44~54mm





Rattan sofa [C-3150-L]

Size : W2100 D800 H770mm



Rattan Lounge Chair

Size : W750 D750 H720mm



Stool [S-3020]

Size : W380 D380 H340mm





KASHIWADO Chair
Size : W850 D770 H630 SH330mm



ISAMU KENMOCHI

1912 - 1971

イサム・ケンモチ
日本・東京生まれ。



剣持勇は、日本を代表するインテリアデザイナーです。ジャパニーズモダンと称されるデザインの礎を柳宗理らと共に築いた人物でもあります。剣持は、1932年に東京高等工芸学校木材工芸科を卒業後、商工省の工芸指導所に入所し技師となります。翌年に工芸指導所に来日したドイツ人の建築家ブルーノ・タウト氏のもとで椅子などの「規範原型」の研究を行いました。

1950年には、来日したイサム・ノグチと出会い、丹下健三の指揮のもと、3人による共作のバンブーチェアが誕生しました。1952年には、渡辺力氏や柳宗理氏らと共に、日本インダストリアルデザイナー協会の設立に協力し、1955年に剣持デザイン研究所を設立。

剣持勇の作品は、美しさ、機能性、持続可能性の融合を体現しており、世界中で人々に影響を与え続けています。1964年には、「ラタンチェア」が、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) の永久所蔵品に選定されました。多くの傑作と呼ばれるプロダクトを誕生させ、ジャパニーズモダンデザインの向上に広く貢献しました。



The Chair 3legs

Size : W500 D470 H685 SH455mm



The Chair 4legs

Size : W500 D470 H685 SH455mm



The Counter Stool

Size : W545 D470 H840 SH610mm



The Backless Stool-A,B,C
3Size



[Option]The Danish Cord Back



The Marolles Bar Stool 3legs
Size : W545 D470 H990 SH760mm



The Marolles Bar Stool 4legs
Size : W545 D470 H990 SH760mm

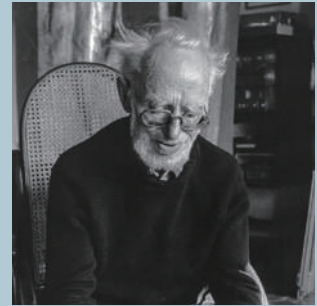


at SHIROIYA HOTEL - Gunma -



JEAN TOURET

1916 - 2004



ジャン・トゥレット

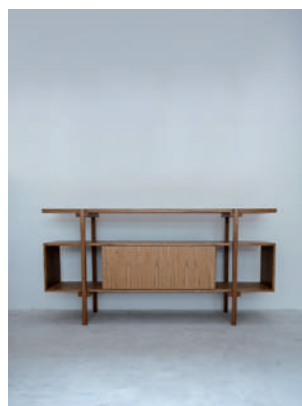
フランス・ラセ＝レ＝シャトー生まれ。

1930年代から主にインスピレーションを受けましたが、1930年代は、マルクス主義の社会主義、資本主義の民主主義、共産主義とファシズムの全体主義など、さまざまな政治的イデオロギーがぶつかり合った時代でした。

パリ・ボザール校を卒業した若き日のトゥレットは、第二次世界大戦中に捕虜となり、南ドイツのヘルツヘビルゲの森林地帯に送られ、木こりとして働くことを余儀なくされました。そこで彼は、農民の素朴な生活、自然、木工を発見し、フランスに戻ると、新しい人生観に目覚め、パリを離れ、友人の画家モーリス・ロシェに従ってプロワ近郊の小村マロールに移住しました。村の大工エミール・ルロワと親しくなり、3人の職人（鍛冶屋アンリ・ヴィオン、籠職人エドモン・ル・フロヒック、陶芸家マニュエル・ゴールド）と出会い、工芸協同組合「アトリエ・マロール」設立しました。彼らの共同作業と卓越された技術によって、革新的な家具の新モデルが誕生したのです。彼らの作品の前提やアイデンティティは、ミニマルな世界という概念を軸に、木や金属などの自然素材の使用を取り入れたものでした。

トゥレットのユートピアは、1950年代、伝統的なノウハウを認めず、工業材料で作られた画一的な家具を求める風潮を否定するものでした。トゥレットは、職人たちの適性を結集し、家具や装飾品を製作するクラフト・アソシエーションを設立することを決意します。それは、素朴な家具の原型を継承しつつ、シンプルで高貴な、現代的な美を追求すること。素朴な家具の原型を残しつつ、シンプルで高貴な、現代的な美学を発展させるという野望が生まれたのです。そして、成功を収めました。1964年からは、「マロールとロワールとシェールの職人たち」（通称「アルチザナ・ド・マロール」）の芸術監督を離れ、絵画に没頭するようになりました。

1970年頃、同団体は解散します。ジャン・トゥレットは、息子のセバスチャン・トゥレットと共に、多くの教会や礼拝堂のレイアウトや装飾、すなわち彫像、祭壇、幕板を制作しました。彼らのデザイン哲学は、物質の中に生命を求め、控えめでありながら爽快な存在感を生み出し、それに寄り添い、喜ばせることにありました。彼らはこれを、ブルータリズムの手法で、非常に控えめでありながら緻密な美学で表現しました。いまブルータリズムの家具は、モダンなインテリアの一部となっています。同じように、ブルータリズムのインテリアデザインは、トップクラスのインテリアデザイン・プロジェクトの中に垣間見ることができるのです。



Caicara Sideboard
Size : W1800 D460 H900mm



SR Sideboard
Size : W1660 D500 H650mm





Caipira Stool

Size : W270 D260 H260mm

MARCENARIA BARAÚNA

1986-

バラウナ工房

ブラジル・サンパウロで設立。



建築デザイン分野で活躍していたフランシスコ・ファヌッチ、マルセロ・フェハス、マルセロ・スズキによって、1986年にブラジル・サンパウロで設立されました。

設立者たちは他分野の専門家と交流し、多様なプロジェクトに取り組みました。その中でも代表的なのが、マルセロ・フェハスとリナ・ボ・バルディが共同で手がけた「SESCポンペイア文化センター」です。このプロジェクトをきっかけに、デザインした家具を自ら製作するための家具工房を設立し、バラウナ工房での家具製作が始まりました。翌1987年には、フレイ・エジディオチェアやジラフチェアの製作・販売が本格化しました。バラウナ工房の家具デザインは建築的アプローチが特徴です。単なるデザインではなく、構造、バランス、素材の特性、快適さ、生産効率など、細部まで徹底的に追求されています。視覚的な美しさに加え、形状や構造、素材に基づいた論理的な理由が明確に存在する家具です。

1994年にマルセロ・スズキが退社した後も、フランシスコ・ファヌッチとマルセロ・フェハスがアドバイザーとして工房を支えています。現在もバラウナ工房では、職人による丁寧な手作業で家具製作が続けられているほか、リナ・ボ・バルディの復刻プロジェクトにも積極的に取り組んでいます。また、フランシスコ・ファヌッチとマルセロ・フェハスは、建築設計事務所「Brasil Arquitetura」も共同運営しており、その建築プロジェクトに使用される家具や什器の製作をバラウナ工房が担っています。

バラウナ工房では、こうした建築プロジェクトのために生まれた家具を取り扱っているだけでなく、クライアントからの特注デザインにも対応しています。オーダーメイドの家具製作を通じて、それぞれの空間や使用目的に最適なデザインを提供し続けています。彼らは、建築と家具の密接な関係を重視し、職人技とデザインの融合を追求することで、唯一無二の家具を生み出し続けています。



DW 02 Book Shelf Small
Size : W1100 D180 H780mm



DW 02 Book Shelf Large
Size : W1755 D180 H780mm



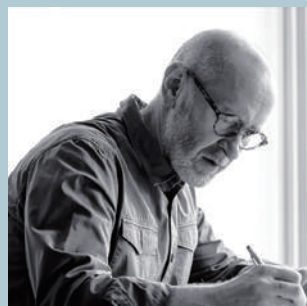
DW 03 Chair
Size : W500 D460 H810mm



DW 01 Stool

Size : W395 D395 H415mm

DEREK WELSH



デレク・ウェルシュ

スコットランドのグラスゴー在住のデレクは、手作業での木工制作を25年以上の経験を積んでいます。彼は小さな工務店の見習い時代から、オーダーメイドのインテリアマテリアルや家具の制作を手掛けてきました。彼の作品には、手仕事の技術と限界、喜び、そしてそれらを追求する厳しさへの敬意が反映されています。彼の作品に欠かせないのは、「今まで作ったことのないものを作りたい」という飽くなき欲求だといいます。独立後のDerek Welsh Studioでもなお、高品質のクラフトマンシップに忠実であり続けています。



Room Divider

Size : W1550 D45 H1600mm~



Coffee Table

Size : W1400 D1000 H300mm



Book Shelf

Size : W1400 D230 H150mm



Floor Lamp

Size : W300 D300 H1400mm



Trestle Table

Size : W1600 D800 H720mm~



Table Lamp

Size : W400 D400 H815mm



Modular Sofa Unit (Both Arms)
Size : W1250 D890 H620 SH380mm



Modular Sofa Unit (One Arm)
Size : W1130 D890 H620 SH380mm



Modular Sofa Unit (Armless)
Size : W1010 D890 H620 SH380mm





Side Table

Size : W750 D375 H210mm~



| X+L
1996-

エックスアンドエル



x+lは、オランダのアムステルダムを拠点とするデザイナー、Xander VervoortとLeon van Boxtelです。舞台や撮影のための美術にバックグラウンドを持つ二人は、1996年にインテリアデザインのためのx+l studioを設立しました。彼らは長年に渡り、写真、広告、舞台美術、ファッション、展示デザインなど、さまざまな分野で活躍してきました。これらの依頼されたプロジェクトに加えて、一点物や非常に小数のみ生産するハンドメイドのオブジェクトを制作しています。職人の友人とも密接に協力し、x + lらしさを常に探求しながらものづくりをしています。彼らの作品の魅力は不規則さにあります。ハンドメイドだからこそ生み出すことができる、デザインやテクニックを用いて、それらの不完全性が、美しさとしてあらゆる人に受け入れられるような活動を目指しています。



Mungaru Dining Chair
Size : W495 D505 H770 SH455mm



Mungaru Easy Armchair
Size : W715 D630 H735 SH395mm



Mungaru Gallery Chair
Size : W535 D570 H730 SH420mm





Mungaru Side Table

Size : W395 D330 H505mm



Tangāli Modular Chair(Both Arms)

Size : W710 D595 H690 SH380mm



Tangāli Modular Chair(Armless)

Size : W565 D595 H690 SH380mm



Tangāli Modular Chair(One Arm)

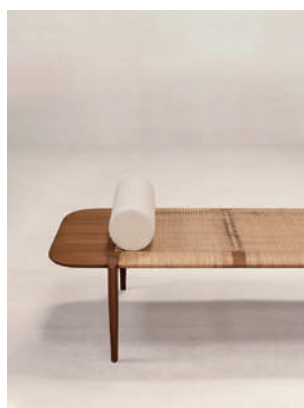
Size : W640 D595 H690 SH380mm



Tangali Side Table
Size : W550 D550 H385mm



Tangali Coffee Table
Size : W1050 D1000 H410mm



Tangali Day Bed
Size : W745 D1900 H410 SH410mm



Tangali Bench
Size : W435 D1800 H410 SH410mm



Tangali Dinning Chair (Armless)
Size : W555 D535 H790 SH450mm



Tangali Dinning Chair (Both Arms)
Size : W615 D535 H790 SH450mm



Tangali Comfort Chair (Both Arms)
Size : W720 D730 H720 SH320mm

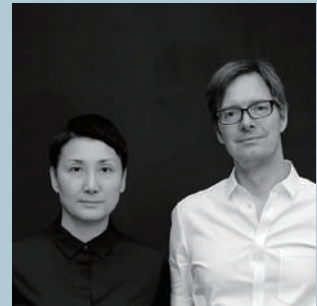


Tangali Ottoman
Size : W605 D400 H340 SH330mm

| INODA + SVEJE

2000-

イノダ+スバイエ



イノダ+SVEJEは、猪田恭子(日本)とニルス・スバイエ(デンマーク)建築デザインの専門家であり、2000年にコペンハーゲンで設立され、後にミラノに拠点を移したデザインスタジオです。彼らはデザインプロセスにおいて調和と美しさの要素を組み合わせる繊細なアプローチを開発し、外部デザイナーとして様々なプロジェクトに取り組んでいます。特に、スタートアップ企業やハイテク機器分野でのデザインに関与しています。

彼らのプロジェクトの一つは、チャンディーガルの家具を再編集する取り組みで、このプロジェクトは同じ「ものづくりの哲学」に基づいた新しい作品を創造することを目指しています。そのために、PhantomHandsとのコラボレーションが始まりました。

Phantom Handsは、INODA+SVEJEがデザインしたDC10とDC09の椅子に魅了され、彼らとコンタクトを取りました。2人は、PhantomHandsの工房を訪れて職人の技術を学び、デザイナーと職人のハンズオンコラボレーションを重視しました。その結果、Mungāru Gallery Chairという椅子が生まれたのです。この椅子はすべて手作業で製作されており、モンスーンの到来と共に椅子のデザインと試作が行われたことから、カンナダ語で「モンスーン前の穏やかで生命力を与える雨」を意味する「Mungāru」という名前が付けられました。



Nandi Dining Chair

Size : W505 D470 H790 SH455mm



Nandi Dining Table (6 Seater)

Size : W2250 D900 H730mm

Nandi Dining Table (8 Seater)

Size : W2800 D900 H730mm



Nandi Day Bed with mattress / cushions

Size : W2045 D925 H280 SH240mm



Nandi Bench with mattress

Size : W2040 D465 H385 SH345mm



Nandi Study Table

Size : W900 D550 H750mm

Nandi Study Stool

Size : W355 D370 H470 SH450mm

| KLEMENS GRUND

1982-



クレメンス・グルンド

ドイツ・ブラックフォレスト生まれ。

スイスのザンクト・ガレンを拠点に活動する家具デザイナー、職人、木工作家です。

2007年にアーヘンのグート・ローゼンベルク工芸学院を卒業し、以前はピーター・ズントーの建築スタジオ（ハルデンシュタイン）でマスターデザイナーとして働いていました。2014年にドイツのケルンに自身のデザインスタジオを設立。その後、彼の作品は、ミラノのサローネ・デル・モービレ、アイントホーフェンのオランダデザインウィーク、上海のCIFF、チューリッヒのノイエ・レウメなど、さまざまな場所で展示されています。彼はNRW州賞、アブラハム&レントゲン賞、スタイルパーク・セレクトッド賞を受賞しています。独立したデザイン活動の他に、現在クレメンスはザンクト・ガレンのアートプロダクションワークショップ、クンストギエスセライ・ザンクト・ガレンの3Dスタジオで働いています。



Niwar Sofa (3 Seater)
Size : W2162 D747 H643 SH378mm



Niwar Sofa (Single Seater)
Size : W838 D747 H643 SH378mm



Niwar Ottoman (Wide)
Size : W766 D436 H378 SH378mm



Niwar Lounge Chair
Size : W600 D700 H679 SH374mm



Niwar Ottoman (Regular)
Size : W600 D400 H378 SH378mm

BIG GAME

2004-



ビッグ・ゲーム

BIG-GAMEは、2004年にオーギュスタン・スコット・ドゥ・マルタンヴィル、エルリック・プティ、グレゴワール・ジャモノによって設立されたスイス拠点のデザインスタジオです。彼らの作品は「シンプルで機能的で前向き」と表現され、アレッシ、HAY、カリモク、無印良品、レクソン、ネスプレッソ、ムスタッシュといった企業のために、さまざまな製品やアクセサリーをデザインしています。BIG-GAMEの作品は、手に取りやすく、魅力的でありながら、何よりも実用的であることが特徴です。

スタジオはこれまでに、スイスデザイン賞、IFデザイン賞、ウォールペーパーデザイン賞、グッドデザイン賞、ウブロデザイン賞、デザイン・プライス・シュヴァイツなど、多くの賞を受賞しています。また、その作品は、Museum für Gestaltung、グラン・オルヌ博物館、ポンピドゥーセンター、MoMA（ニューヨーク近代美術館）などのコレクションにも収蔵されています。

BIG-GAMEはスイス・ローザンヌに拠点を置き、5〜7人のチームで活動しています。デザイン業務に加え、3人の創設者はローザンヌ美術大学（ECAL）の教授も務めています。

【創設メンバー】

グレゴワール・ジャモノ

1978年生まれのスイス人。ヴォー州で育ち、ローザンヌ美術大学（ECAL）でインダストリアルデザインを学び、2003年に卒業しました。

エルリック・プティ

1978年生まれのベルギー人。ベルギーとアルジェリアで育ち、ブリュッセルのラ・カンブル国立美術大学でインダストリアルデザインを学び、2003年に卒業しました。

オーギュスタン・スコット・ドゥ・マルタンヴィル

1980年生まれのフランス人。中国（北京と香港）で育ち、ローザンヌ美術大学（ECAL）で学び、2005年に卒業しました。



Palakkad Chair

Size : W470 D525 H855 SH470mm

NITYAN UNNIKRISHNAN

1976-

ニティアン・ウンニクリシュナン
インド・ケララ生まれ。



ニティアン・ウンニクリシュナンは、インドのゴアを拠点に活動するアーティスト兼デザイナーです。彼の作品は、Chatterjee & Lalなどの多くの主要なギャラリーや美術館で展示されています。アーメダバードの国立デザイン研究所(NID)で工業デザインの大学院を修了した後、陶芸家として活動し、インドの農村部各地で工芸開発プロジェクトに取り組んでいました。2010年からはフルタイムで絵画と彫刻を始め、以来一貫して展示を行っています。

彼が家具デザインに取り組むようになったきっかけは、DIYでした。自宅用の合板ダイニングテーブルを作ったことをきっかけに、その後の10年間で多くの家具デザインプロジェクトを手掛けるようになり、その多くは友人や家族のためのものとして制作されました。ニティアンのデザイン美学は、インドの芸術と工芸の多様で無限の層、インドの独立後のモダニズム、そしてある程度はNIDでの経験から得た西洋のモダニズムの間に位置しています。

ABOUT US

Art Modern Japan 株式会社 CASA DE : 東京都板橋区小茂根 2-13-10

Tel : +81 (0)3 6276 5323 / contact@gallerycasade.com

Open by appointment only.



LINE



HP



Online Store



Instagram